

直前期の学習

茗溪塾塾長 長谷 誠基

冬期講習・正月特訓が終わり、この便りが家庭に届くころには中学入試が始まっています。その後、高校入試、大学入試の共通テストと続き、いよいよ受験シーズンに入っていきます。

正月特訓では入試レベルの問題にあたりながら、今年気を付けるべきテーマについての学習も行い、受験生たちはかなり集中して学習に取り組んでいました。この緊張感を持続して受験に向かってほしいと思います。

話は変わりますが、正月恒例の箱根駅伝は青山学院大学が圧倒的な強さを見せて総合優勝を果たしました。今年の作戦は「パワフル大作戦」と名付けられていましたが、原監督がどう考えていたかを聞くと、去年はエースが直前で故障しチーム全体が動揺してしまい、それをカバーできなかった。今年は全体のレベルを上げ、誰が走っても勝てるチーム作りをしようと、練習メニューも変え、選手がそれに応えていき、本当に強いチームが出来上がったそうです。選手一人一人のタイムを見ると他の大学も優秀なチームがありましたが、全ての選手のレベルが高くしかもほとんどの選手が力を出し切った青山学院大学にはかなわなかったということでしょう。

受験に置き換えてみると、やはり教科のバランスが取れていることが非常に重要なのではないかと思います。算数や数学が得意だが、他の教科が今一つでは、万一算数で失敗してしまうと取り返すのが非常に難しくなります。最後の追い込みでも満遍なく学習することが重要になります。

また、逆に入試直前になると弱点ばかりに目が行き、最後はその教科だけをやればいいと考えてしまうこともあります。これもバランスを崩す原因になります。弱点の教科は今までかなり学習してきても弱いので、これを上げていくのにはかなりの意欲と時間がかかります。もしかしたら、時間をかけたのにあまり成果が得られないということになってしまうかもしれません。それから、学習量が減った教科の点数が落ちてしまうこともあります。せっかくここまで積み上げてきたものですから、ここで落としてしまうのは得策ではありません。やはり教科のバランスを考えながらやるのが結局が一番良いということになります。

入試までの期間は短いですがやれることはまだまだあります。最後まで実力を上げていく学習を心がけてほしいと思います。